愛媛大学教育学部紀要　教育科学　第48巻　第1号　1～4　2001

登場人物のイメージに及ぼす視点の役割

佐　藤　公　代
（教育心理学教室）

（平成13年5月24日受理）

The Effect of the Viewpoint on Characters Image

Kimiyo SATOU

（問題と目的）

視点の問題に関して，佐藤の（1984，1992，1993，1994）題材は，物語の読みとり方の多様性に欠けるものであり，小学校低学年以降ではどのような先行情報を与えてもその影響を受けていない。そこで本研究では，多様な読みとり方が考えられる題材「与える木」を用い，主人公の性格を枠組みづけることによって，理解，感情，創造性にどのような影響を及ぼすのかについて明かにする。

仮説は次の通りである。

（1）「木に同情するような不幸的感想」を書くのは，女性に多いだろう。

（2）初発感想と「同じ立場の枠組みを与えられた群」は，「異なる立場の枠組みを与えられた群」よりも理解が良いであろう。

（3）「幸福的枠組みを与えられた群」は，「不幸的枠組みを与えられた群」よりも「木の幸福度」「少年の優しさ度」の感情理解において高い評価を得るであろう。

（4）「幸福的枠組みを与えられた群」は，ハッピーエンドに，「不幸的枠組みを与えられた群」は，アンハッピーエンドに物語を創造作成するであろう。

（方　　法）

1）実験期日：2000年10月16，17日

2）被験者：E大学1回生197名（男性70名，女性127名）

3）手続き：「与える木」の初発感想の分類割合がほぼ同数になるように「不幸的枠組み群」と「幸福的枠組み群」の2群に分け，理解テスト，感情理解テスト，創造性テストを独自に作成した。作成の際，守屋（1995）の研究を参考にし，筆者と心理学専攻の4回生4名に協

力を得，適切でない項目の修正，削除を行って，内容的妥当性，信頼性を検討した結果，一致率は95％であった。

4）結果の処理方法：イ，初発感想において，「プラスのイメージ」は1，「マイナスのイメージ」は2，「客観的」は3に分類した。ロ，理解テストにおいて，「完全回答」は2点，「完全ではないもの」は1点，「誤答」は0点とした。ハ，感情理解テストにおいて，「プラスイメージ」は2，「両方イメージ」は1，「マイナスイメージ」は0に分類した。ニ，「ハッピーエンド」は1，「アンハッピーエンド」は2，「感情がないもの」は3に分類した。

（結果と考察）

Fig. 1 に性別ごとの初発感想を示す。

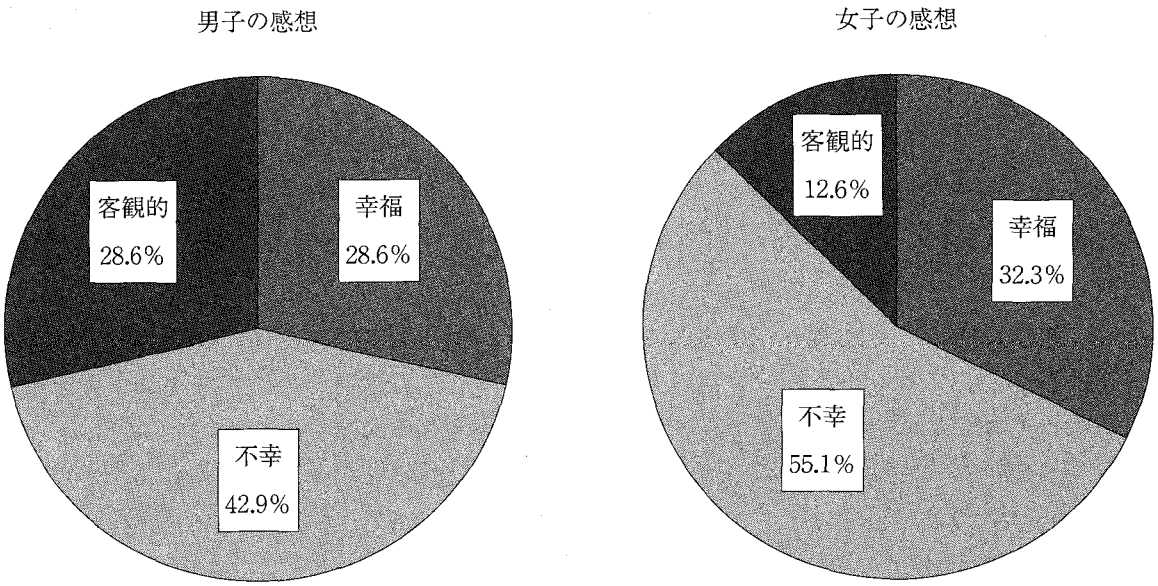

Fig. 1　性別ごとの初発感想

Fig. 1 より，初発感想において，性別と感想において，5％水準で有意差がみられ，女性では「不幸的感想」，男性では「客観的感想」が多い。よって，仮説（1）は支持される。これは，一般的な性差の諸能力から説明されるのであろう。つまり，女性は感情的に，男性は理性的に判断する傾向があるということを意味する。「与える木」を女性，特に母親の役割に似ていると書いた女性の感想が多い。女性は，社会から期待されている女性の役割を自分の将来の姿に重ね合わせて，「与える木」の絵本をみているのであろう。

全被験者を感想と枠組みが同一のグループ（枠組化同とする）と異なるグループ（枠組化異とする）の2グループに分け，枠組化を独立変数，理解テストを従属変数とした一元配置分散分析を行った結果，合計得点において，有意差はみられない。そして，理解テストのほとんどの問題において，枠組化同よりも枠組化異の方の平均点が高い。

次に，感想と枠組みの組み合わせによって，客観的感想を除く被験者を4グループに分ける。つまり，「不幸幸福」（不幸的感想をもち，幸福的枠組みを与えられた場合），「不幸不幸」（不幸的感想をもち，不幸的枠組みを与えられた場合），「幸福不幸」（幸福的感想をもち，不

幸的枠組みを与えられた場合)，「幸福幸福」(幸福的感想をもち，幸福的枠組みを与えられた場合）である。「客観不幸」(客観的感想をもち，不幸的枠組みを与えられた場合)，「客観幸福」(客観的感想をもち，幸福的枠組みを与えられた場合）のグループの２種類も示しておく。

Fig. 2 に感想と枠組みの組み合わせによる理解テスト合計点の平均を示す。

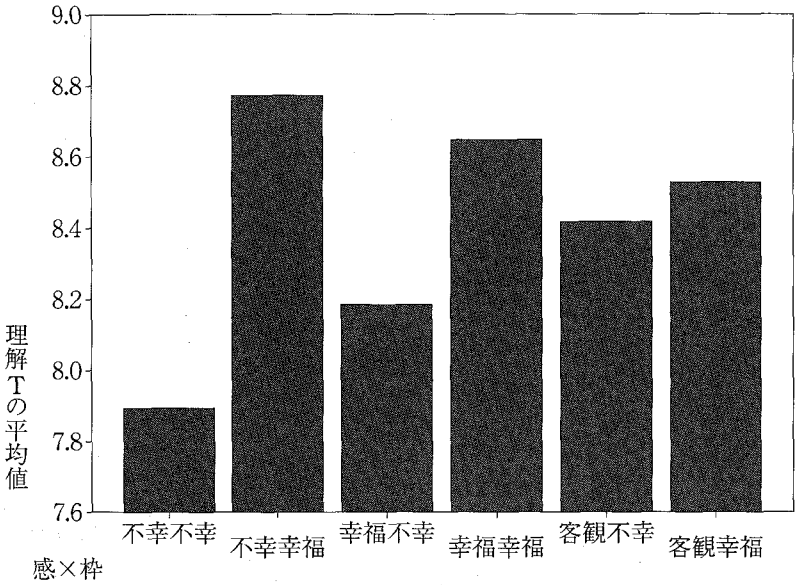

Fig. 2　感想と枠組の組み合わせによる理解テスト合計点の平均

「感想×枠組み」を独立変数，理解テストを従属変数とする一元配置分散分析を行った結果，理解テスト合計点において５％水準で有意差が認められ（F（3，157)＝3.95，P<.05)，「不幸不幸」<「幸福不幸」<「客観不幸」<「客観幸福」<「幸福幸福」<「不幸幸福」の順に平均点が高まっている。Tukey の検定結果によると，「不幸不幸」，「不幸幸福」グループに有意差がみられる。「不幸的感想」を書いた被験者は，「不幸」な話しだという感情が強く，枠組みによる意外性から注意深く読み，詳細にわたって良く覚えていたからであろう。よって，仮説（２）は支持されない。

「感想×枠組み」を独立変数とし，感情理解テストを従属変数とした一元配置分散分析を行った結果，感情理解テスト11（木の性格)，12（少年の性格)，21（木が少年と再会する時の気持ち)，22（少年が木と再会する時の気持ち)，32（最後のシーンにおける少年の気持ち)，42（少年の木に対する感情）と「木の幸福度」において，グループ間に１％水準で有意差がみられる。その後，Tukey の検定結果，「不幸的枠組み」を与えられた群と「幸福的枠組み」を与えられた群それぞれの間に５％水準で有意差が認められる。

次に，「木の幸福度」と「少年の優しさ度」の相関を検討した結果，１％水準で正の相関が見られる。木は愛情深く親のような存在だと認識している人は少年に対しても甘えん坊で優しいなどとプラスのイメージをもっていることがわかり，マイナスのイメージはみられない。感情理解テストにおいて，「幸福的枠組みを与えられた群」は，「不幸的枠組みを与えられた群」よりも「木の幸福度」「少年の優しさ度」を高く評価している。よって，仮説（３）は支持される。

物語の続きをどのように作成しているかの度数分析の結果，「ハッピーエンド」にまとめているのは，74.1%（146人）である。Fig. 3 に感想と枠組みの組み合わせによる創造性（想像性）テストの結果を示す。

枠組みによる創造性テストの影響を検討するために，「不幸的」「幸福的」「客観的」な感想を書いた３グループに分け，枠組みと創造性テストにおけるカイ二乗検定の結果，「不幸的感想」群に５％水準（x^2（２)＝13.90）で有意差が認められる。

Fig. 3 から，「不幸的感想」をもっていても，「幸福的枠組み」を与えられると，「ハッピーエンド」にする人の割合が増加し，「不幸的枠組み」を与えられると，「アンハッピーエンド」にする人の割合が増加している。

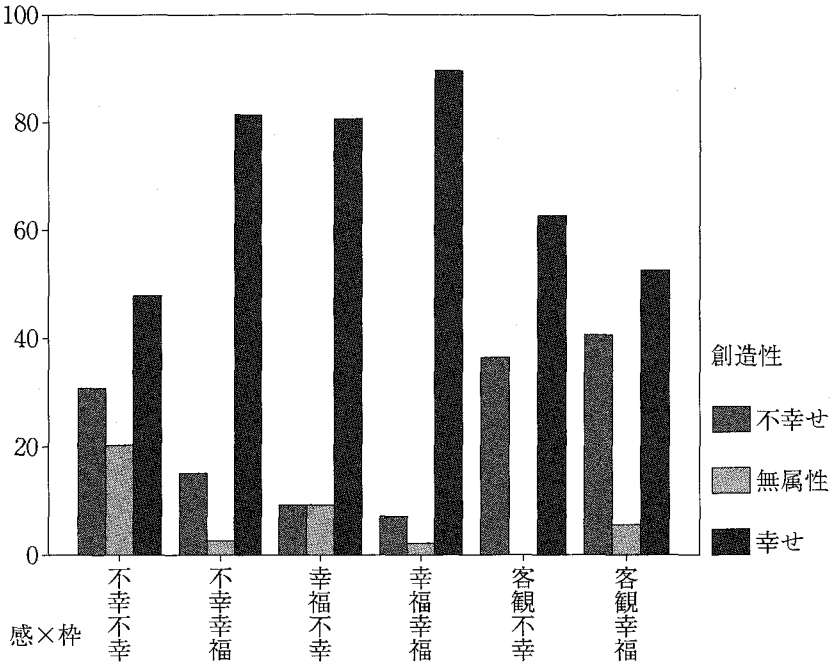

Fig. 3　感想と枠組の組み合わせによる創造性テスト

次に，初発感想と創造性テストとのカイ二乗検定の結果，「幸福的感想」と「客観的感想」間に1％水準（x^2（2）＝13.56）で有意差がみられ，「不幸的感想」と「客観的感想」間に10％水準（x^2（2）＝5.59）で傾向が認められる。

Fig. 3 から，「客観的感想」を書いた群は「アンハッピーエンド」に創作していることがわかる。これは，各人の価値観による初発感想によるところが大きいと言える。よって，仮説（4）は一部支持される。

以上から，仮説（1），（3）は支持され，仮説（4）は一部支持される。仮説（2）は支持されないが，意外性という観点から今後の問題を発展させることができる。

（引用文献）

守屋慶子　1995　子どもとファンタジー　絵本による子どもの「自己」の発見　新曜社

佐藤公代　1984　幼児の思考の発達に関する研究－幼児の物語理解に及ぼす視点の役割－　愛媛大学教育学部紀要　第1部　教育科学　第30巻　79－86

佐藤公代　1992　幼児，児童の物語理解に及ぼす視点の役割に関する研究　愛媛大学教育学部紀要　第1部　教育科学　第38巻第2号　57－73

佐藤公代　1993　枠組みの違いによる子どもの文章理解に関する研究　愛媛大学教育学部紀要　第1部　教育科学　第40巻第1号　1－31

佐藤公代　1994　詩の記憶，理解に及ぼす視点の効果に関する研究　愛媛大学教育学部紀要　第1部　教育科学　第40巻第2号　21－32

佐藤公代　1994　条件推理能力の発達に及ぼす視点の役割　愛媛大学教育学部紀要　第1部　教育科学　第41巻第1号　57－70

（注）

問題作成，統計処理にあたりました渡部優子氏，被験者の皆様に心より御礼申しあげます。